

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心 No.342

濁る世を澄めともよばず わがなりに
澄まして見する 谷川の水(良寛)
△解説▽世捨て人のような良寛で
も世相の乱れに心が痛んでいる。し
かし、自分では何も出来ない。せめ
て自分だけは悪にそまることなく、
清らかに生きていきたい。こうした
良寛の生き方はそのまま人間の心の
浄化を願う「祈り」となっている。
この歌をじっくりと味わいたい。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.17 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月17日(月曜日)

中村元 慈しみの心 No.341

故なくして悪口を言い、罵り、罪な
き人を傷つけるなら、その悪口、罵声
はその人にかえってくる。ちようど土
を取って投げつけても、風に吹き戻さ
れて自分に返ってくるようなものだ。
(ブツダ)
△解説▽人間は生まれながらに口
中に斧(一舌)を持っていて、それ
で悪口を言っては自分を傷つける、
とブツダは教えている。ところが人
間は悪口が好きだ。それだけに自戒
する必要がある。因果応報ともいう。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.16 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月16日(日曜日)

中村元 慈しみの心 No.344

逃げた女を捜し求めることと、おの
れ自身を捜し求めることとどちらが大
事か。(ブツダ)
△解説▽優雅な行楽を楽しむ若者
の夫人たちの装飾品を一人の女が盗
んで逃げた。女を探し求める若者た
ちに、ブツダは女よりも自己を求め
る方が大切だと説いた。できすぎた
物語だと思ふ前に、私たちも物に執
着して、自己を見失っているのでは
ないかと反省する必要がある。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.19 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月19日(水曜日)

中村元 慈しみの心 No.343

病気よし、失恋よし、不幸よし、失
敗もよし、泣きながらパンを食うもよ
し、大事なことは、そのことを通して、
自分を人間らしくしてゆくことだ。人
のいたみのわかる人が、本当の人間な
のだ。(坂村真民)
△解説▽山あり谷ありの無常なる
人生をそういうものと受け止めて、
挫けず、前向きに生きよとブツダは
説いた。そうした苦しみをのり超え
る努力こそが自分を人間として成長
させ、そして他者の心の痛みのわか
る人間としてくれる。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.18 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月18日(火曜日)

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心 No.346

私は人間に生まれ、人間に長じ、人間に仏を得た。
(ブツダ)
△解説▽釈尊は人間として悩み、修行し、悟りを開いて「ブツダ」となり、教えを説いた。人間だからこそ、病気にもなり、迷いを生じてはそれをのり超えている。「人間ブツダ」の面目躍如たるブツダ自らの言葉である。(完全無欠で光彩陸離として輝く超人的な仏陀像は大乗仏教期以降の信仰である)

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.21 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月21日(金曜日)

中村元 慈しみの心 No.345

はずべくんば明眼の人をはずべし。
(道元)
△解説▽自分の業績や能力を評価するのに、レヴェルが低いものと比べると、自分はいしたものだと思われ。同等のものと比較するとオレも何とかやっているなど満足する。しかし、道元はトップクラスの「明眼の人」からの評価を基準にして自らに恥じよという。それが自分の美学であり、矜持であり、そして自己をさらに向上させる道である。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.20 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月20日(木曜日)

中村元 慈しみの心 No.348

われ、たとい死刑におこなわるとも、このこと言わずばあるべからず。
(法然)
△解説▽法然は晩年に四国に流罪されるが、かえって念仏を新しい土地に広める機会だと受け止める。弟子が念仏をやめないと死刑になると怖れたが、法然は念仏のために死刑になることも辞せず、と決意を披瀝した。信仰のためと言いつつ、政治目的のために無辜の人を殺す自爆テロなどは区別してほしい。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.23 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月23日(日曜日)

中村元 慈しみの心 No.347

タダ坐禪。タダ念仏。この「タダ」と言うことが、凡夫にはツマラナク思える。凡夫はいつでもツリがほしいんじや。お前さんも欲たらしいなあ。ただでこの世に生まれてきていなながら、釣り銭、貰おうと思うとる!
(澤木興道)
△解説▽タダ坐り、タダ念仏する。結果を求めない。しかし、実はこれが本当の自分を判らせてくれる。結果を求めない行だからこそ、結果が得られるのである。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.10.22 中村元記念館協力

2016年(平成28年)10月22日(土曜日)